



河野 眞 国際コミュニケーション学部教授

◆経 歴

昭和21年12月5日 兵庫県伊丹市生
昭和40年3月 伊丹市立伊丹高等学校卒業
昭和40年4月 京都大学文学部入学
昭和45年3月 京都大学文学部卒業
昭和45年4月 京都大学大学院文学研究科入学
昭和47年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了（修士学位取得）
昭和47年4月 愛知大学教養部講師
昭和53年4月 愛知大学教養部助教授
平成3年4月 愛知大学教養部教授
平成10年4月 愛知大学国際コミュニケーション学部教授 現在に至る

学位：博士（文学／京都大学）平成18年3月

教育研究業績書

2015 (平成27年度)

著書：ドイツ文学と民俗学－ファウストとシンデレラ

2016年3月 創土社 619頁、口絵16頁

論文：民俗学にとって民藝とは？－ドイツ語圏における概念の推移と今日の課題

2015年5月 日本民俗学会『日本民俗学』第282号 1-42頁

論文：昔話の分類における《動物昔話》というジャンルの措定をめぐる西洋思想の一般的背景(1) 2016年3月『比較民俗学会報』第36巻第4号(通巻166号) p.1-8.

論文：比較研究としての民俗学に寄せて

2016年3月 比較民俗研究会(神奈川大学大学院 歴史民俗資料科学研究科 佐野研究室気付)『比較民俗研究』第30号 p.1-4.

翻訳：ヴィルヘルム・フレンガー「十八世紀のロシア民画(木版摺繪)と元になったドイツの原画－民藝と高次藝術の相関」(1926) Original: Wilhelm Fraenger, *Deutsche Vorlagen zu russischen Volksbilderbogen des 18. Jahrhunderts*. In: Ders. (Hg.), *Vom Wesen der Volkskunst (= Jahrbuch für historische Volkskunde, 2)*. Berlin 1926, S.126-173.

2015年7月愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第33号, p.119-183.

翻訳：ヴォルフガング・ブリュックナー「『青騎士』における民藝の発見」(1995) Original: Wolfgang Brückner, *Der Blaue Reiter und die Entdeckung der Volkskunst als Suche nach dem inneren Klang*. In: Gottfried Boehm (Hg.), *Beschreibungskunst – Kunstbeschreibung, Ephkrasis von der Antike bis zur Gegenwart*. München 1995, S.520-542.

2016年1月愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第34号, p.175-214.

翻訳：パウル・ミュンヒ「人間と動物の違い－近代初期の人類学と動物学の基本問題」(1998)－国際コミュニケーション学会(編) *動物倫理の西洋文化5*. Original: Paul Münch, *Die Differenz zwischen Mensch und Tier. Ein Grundlagenproblem frühneuzeitlicher Anthropologie und Zoologie*. In: *Tiere und Menschen. Geschichte und Aktualität eines prekären Verhältnisses*, hrsg. von Paul Münch. Paderborn u.a. 1998, S.323-347.

2015年12月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第35号, p.157-186.

口頭発表：「ヘルマン・パウジンガー『ドイツ人はどこまでドイツ的？－国民性をめぐるステレオタイプ・イメージの虚実と因由』(原著2000年：河野訳2011年)を読む－特に集団形成の特質から見た西洋文化論の是正のために－」

中部ドイツ史研究会 第123回例会 2015年7月4日(土) 名城大学10号館3階第2大会議室

口頭発表：昔話の分類基準の再考

2014年10月3-4日 愛知大学国際コミュニケーション学会・比較民俗学会(共催)「昔話の概念の再検討」

口頭発表：ドイツ民俗学における歴史民俗学としての法民俗学の方法

日本民俗学会年会 10月11日(日) 於：関西学院大学 発表要旨：

2014 (平成26年度)

- 訳書：法民俗学の輪郭 — 中世以後のドイツ語圏における町村体と民衆生活のモデル Original: Karl-Sigismund Kramer, *Grundriß einer rechtlichen Volkskunde*. Göttingen: Otto Schwarz 1974.
2015年3月 文編堂 332 p.
- 論文：〈世間 vs 社会〉は〈日本と西洋〉を比較できる基準だろうか (1)
2014年2月 愛知大学文学会『文学論叢』第151輯, p.35-68.
英文タイトル：Can a Comparison of “Seken (Public)” and Society be a Criteria to Examine Differences Between Japan and the West? (1)
- 論文：トラウマと覚醒のあいだ — 〈個人主義の西洋〉を前にした日本人の思考の曲折 (1)
2014年12月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第33号, p.45-72.
英文タイトル：Between Trauma and Awareness: Change of Perspectives Through Japanese History About Individualism in the Western Countries (1)
- 論文：トラウマと覚醒のあいだ — 〈個人主義の西洋〉を前にした日本人の思考の曲折 (2)
2015年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第34号, p.107-126.
英文タイトル：Between Trauma and Awareness: Change of Perspectives Through Japanese History About Individualism in the Western Countries (2)
- 論文：ドイツ語圏のエスノロジーの変遷から見た石田英一郎の文化圏構想の再評価
— 〈天馬の道〉説の背景と仕組み — (1)
英文タイトル：Revisit the Culture Circle of the Anthropologist, Eiichiro ISHIDA (1903-68), Analyzed by What Had Changed in the German and Austrian Ethnologies from the Late 19th to the Early 20th Centuries: The Background of the Theory “The Path of Heavenly Horses” (1)
2014年12月 愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第48集 . p.27-35.
- 翻訳：マルティーン・シャルフェ「民藝のメタモルフォーゼ」(1972) Original: Martin Scharfe, *Die Volkskunst und ihre Metamorphose*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 70 (1974), S.215-245.
2014年7月愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第31号, p.123-169.
- 翻訳：アドルフ・シュパーマー「民藝と民俗学」(1928) Original: Adolf Spamer, *Volkskunst und Volkskunde*. In: Oberdeutsche Zeitschrift für Volkskunde. 2.Jg. (1928), S.1-30.
2015年1月愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第32号, p.155-208.
- 翻訳：ルート＝E・モーアマン「〈屠殺を業とする者よ、汝、鮮血に染まるも・・・〉 — 十九世紀の公共屠殺場の設立事情」(原著1991) — 国際コミュニケーション学会(編) 動物倫理の西洋文化4. Original: Ruth-E. Mohrmann, „Blutig wol ist Dein Amt, o Schlachter . . .“ Zur Errichtung öffentlicher Schlachthäuser im 19. Jharhundert. In: Hessische Blätter für Volks- und Kulturforschung. NF d. Hessischen Blätter für Volkskunde, Bd.27 (1991), S.101-118.
2014年12月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第33号, p.103-127.
- 翻訳：ゴットフリート・コルフ「今日の民藝？」(1986) Original: Gottfried Korff, *Volkskunst heute?* In: *Volkskunst heute? Volgelscheuchen, Hobby-Künstler, Vorgarten-Kunst, Fronleichnamsteppiche, Krippen, Graffiti, Motorrad-Tanks, Autobemalungen, Tätowierungen, Punk-Ästhetik. Begleitband zu einer Ausstellung im*

Haspelturm des Tübinger Schlosses aus Anlaß der Landeskunstwochen 1986 vom 16. Mai – 29. Juni 1986. Hrsg. von Gottfried Korff. Tübingen: Ludwig-Uhland-Institut für empirische Kulturwissenschaft der Universität Tübingen 1986, S. 7-25

2015年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第34号, p.195-232.

企画・口頭発表：グリム兄弟の昔話を今日から振り返ると

2013 (平成25年度)

著書：民俗学のかたち - ドイツ語圏の学史にさぐる

2014年3月 創土社 口絵16葉, x, 606p.

論文：ドイツの観光街道に見る〈線型〉観光の可能性 (1)

2013年12月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第142号, p.1-49.

論文：昔話研究における〈自家類型〉(oicotype)の概念をめぐって - シドゥウ理論の再検討 - (2)

2013年12月 愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第45集, p.29-40.

論文：昔話研究における〈自家類型〉(oicotype)の概念をめぐって (3) - シドゥウとヴェッセルスキーの理論の再検討

2014年3月 愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第46集, p.15-33.

論文：愛知大学国際コミュニケーション学部のフィールドワーク - 経緯とこれからの課題へのスケッチ -

2013年12月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第31号, p.1-14.

論文：イーナ＝マリア・グレヴェルスとフィールドワークの方法

2013年12月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第31号, p.89-99.

論文：民藝論へのスケッチ - ドイツ・オーストリアの学史の検討 (1) アーロイス・リーグル

2014年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第32号, p.1-41.

報告書：「ドイツ語圏に見る民藝と民俗」(愛知大学研究助成 [平成21年度共同研究2009-2011年度: B-35] による共同研究「民衆工芸の理論と歴史に関する国際比較」報告書) -

2014年3月15日 愛知大学フォークライフ研究会 愛知大学民具陳列室「研究報告」第2輯

翻訳：アーロイス・リーグル「民藝・家内作業・問屋制家内工業」Original: Alois Riegl, *Volkskunst, Hausfleiß und Hausindustrie*. Berlin [G.Siemens] 1894, 82 S

2014年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第32号, p.83-126.

翻訳：アンドレアス・C・ビマー「動物に居場所はない - 人間の公共空間から動物を追放する動向へのエッセイ」(1991) 国際コミュニケーション学会(編) *動物倫理の西洋文化3*. Original: Andreas C. Bimmer, *Kein Platz für Tiere. Über die allmähliche Verdrängung aus der Öffentlichkeit des Menschen - Ein Essay* - . In: Mensch und Tier. Kulturwissenschaftliche Aspekte einer Sozialbeziehung. Hessische Blätter für Volks- und Kulturforschung 27 (1991), S.195-201.

2014年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第32号, p.127-137

翻訳：ベルンヴァルト・デネケ「民藝の発見と藝術産業」(1964) Original: Bernward Deneke, *Die*

Entdeckung der Volkskunst für das Kunstgewerbe. In: Zeitschrift für Volkskunde, 60. (1964), S.168-201

2013年12月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第30号, p.81-130.

翻訳: イーナ=マリア・グレヴェルス「ジェンダーから見たフィールドワーク

文化的営為としてのパフォーマンスにおける男と女と人間」(1997) Original: Ina-Maria Greverus, *Performing Culture. Feldforschung männlich – weiblich – menschlich.* In: Christel Köhle-Hezinger, Martin Schafre, Rolf Wilhelm Brednich (Hrsg.), *Männlich. Weiblich. Zur Bedeutung der Kategorie Geschlecht in der Kultur.* 31 Kongreß der Deutschen Gesellschaft für Volkskunde, Marburg 1997. Münster u.a. [Waxmann] 1999, S.75-98.

2013年12月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第31号, p101-136.

翻訳: マルティーン・シャルフェ「民俗学が読んだヴィニエツト(縁飾り) – 装飾図案の隠れた意味」(2005)

Original: Martin Scharfe, *Vignetten. Zur verborgenen Bedeutung von Bildbagatellen.* In: Der Bilderalltag. Perspektiven einer volkskundlichen Bildwissenschaft. Hrsg.von Helge Gerndt und Michael Haibl. Münster / New York / München / Berlin [Waxmann] 2005, S.135-154.

2013年7月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第29号, p.73-103.

エッセイ: ポスト・モダンの現場? – 大学の金融不祥事をめぐる憂鬱

2013年9月愛知大学教職員組合『ひろば』第100号, p.37-40.

コラム: アンティーク・コーヒーミルを遡る

2013年12月 愛知大学 民具陳列室 (国際コミュニケーション学部)『民具陳列室ニュース』第9号, p.1-12 (写真とも S.K 名義で M.Y. と共同執筆).

口頭発表: <経済と藝術>が論じられた時代を振り返る – アーロイス・リーゲルの民藝論とハインリヒ・ヴェンティヒの藝術経済論 (付: レジュメ)

2013年12月14日 土曜会 第13回 於: 愛知大学豊橋校舎研究棟第3会議室

口頭発表: ベトナム北部の茶樹と茶文化 – 最近の調査から (共同報告者 5人/付: レジュメ) 愛知大学国際コミュニケーション学会 (主催) / 茶の文化振興会・豊茗会 (後援) 第62回国際学術交流プログラム
2014年3月15日 於: 愛知大学名古屋「ささしま」校舎 L 棟第508会議室

2012年 (平成24年度)

論文: ファウスト伝承への民俗学からのスケッチ – 民衆信心と世俗化のあいだ (2)

2012年7月 愛知大学文学会『文学論叢』第146輯, p.53-80.

論文: ファウスト伝承への民俗学からのスケッチ – 民衆信心と世俗化のあいだ (3)

2013年3月 愛知大学文学会『文学論叢』第147輯, p.29-54.

論文: スポーツと民俗学 - ドイツ民俗学 / 日常研究の視角から (1)

2012年9月 愛知大学一般教育研究室『一般教育論集』第43集, p.33-42.

論文: スポーツと民俗学 - ドイツ民俗学 / 日常研究の視角から (2)

2013年3月 愛知大学一般教育研究室『一般教育論集』第44集, p.13-32.

論文: カール=S. クラーマーの法民俗学について – ドイツ民俗学の世界から 英文タイトル *On the “Legal Folklore Studies” and its reformer Karl-Sigismund Kramer (1916-1998) in the academic circle of*

German Folklore Studies.

2012年11月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第29号, p.1-41.

翻訳：クラウス・ロート「現代ヨーロッパの国際コミュニケーションにおける〈隣人〉と〈隣国〉」クラウス・ロート（編）『近隣 — ドイツ人・ポーランド人・チェコ人のあいだのインターカルチュラル・コミュニケーション』（2001）への序説」(2) Original: Klaus Roth, *Nachbarn und Nachbarschaftsbeziehungen in Europa als Forschungsproblem der Europäischen Ethnologie und der Interkulturellen Kommunikation*. In: Klaus Roth (Hg.), *Nachbarschaft. Interkulturelle Beziehungen zwischen Deutschen, Polen und Tschechen*. Münster / New York / München [Waxmann] 2001 (Münchner Beiträge zur Interkulturellen Kommunikation, Bd.11.), S.9-34.

2012年12月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第140号, p.163-176.

翻訳：カール・ブラウン「悪趣味？それとも儀式？ — スペインの闘牛への民俗学からのコメント」国際コミュニケーション学会（編）*動物倫理の西洋文化1*. Original: Karl Braun, *Sadismus? Rituell bedingte Grausamkeit? Zur Rolle der Gewalt in spanischen Stierkämpfen*. (1994). In: *Gewalt in der Kultur. Vorträge des 29. Deutschen Volkskundekongresses*. Passau 1993, hrsg. von Rolf W. Brednich und Walter Hartinger. 2 Bde. Passau 1994, Bd.2, S. 451-465.

2012年12月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第29号, p.163-181.

翻訳：ベルリン・ディスカッション：ベルリン（フムボルト）大学におけるヨーロッパ・エスノロジーの十年と今後の課題」ヴォルフガング・カシューバ／ペーター・ニーダーミュラー／ベルント＝ユルゲン・ヴァルネッケン／ギーゼラ・ヴェルツの座談会：司会：シュテファン・ベック／レオノーレ・ショルツェ＝イールリッツ（2001）Original: *Berliner Diskussion: Perspektiven Europäischer Ethnologie – Versuch einer Zwischenbilanz. Gespräch zwischen Wolfgang Kaschuba, Peter Niedermüller, Bernd Jürgen Warneken und Gisela Welz. Programmdirektoren: Stefan Beck und Leonore Scholze-Irrlitz*, aus *Berliner Blätter*, Jg.23 (2001), S.167-190.

2013年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第30号, p.89-137.

翻訳：ジークフリート・ベッカー「ミツバチと養蜂が映す西洋社会の自画像 — ドイツの事例にみるその変遷」国際コミュニケーション学会（編）*動物倫理の西洋文化2*. Original: Siegfried Becker, *Der Bienenvater. Zur kulturellen Stilisierung der Imkerei in der Industriegesellschaft. Dem Andenken meines Vaters*. In: *Hessische Blätter für Volks- und Kulturforschung. NF d.Hessischen Blätter für Volkskunde*, Bd.27 (1991), S.163-194.

2013年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第30号, p.37-87.

翻訳：コンラート・ケストリエン「自然としての文化 — 文化としての自然：民俗研究における自然の概念」Original: Konrad Köstlin, *Kultur als Natur – des Menschen*. In: Rolf Wilhelm Brednich, Annette Schneider und Ute Werner (Hg.), *Natur – Kultur : Volkskundliche Perspektiven auf Mensch und Umwelt*. 32. Kongreß der Deutschen Gesellschaft für Volkskunde in Halle vom 27. IX. bis 1.X.1999. , Münster [Waxmann] 2001, S.1-10.

2013年3月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第141号, p.127-160.

口頭発表：現代民俗学のための二つの着眼点 — ドイツ民俗学の視角から
日本民俗学会年会 10月6日（日）於：東京学芸大学 発表要旨：

口頭発表：ドイツ民俗学の世界から — 1970年頃の民俗学の記録映画を見ながら現在と比較し、日本とも比較を試みる

三河民俗談話会12月例会 12月22日（土）於：愛知大学5号館541会議室

講演：西洋の喫茶習俗について

2013年1月13日（日）岡崎市立図書館「むかし館」（松下智との座談を含む）

2011（平成23年度）

著書：フォークロリズムからみた今日の民俗文化

2012年3月 創土社 口絵8葉, viii, 568p.

論文：祭りの考察にみる日本民俗学の視点をめぐって — 批判的スケッチ —

2011年9月 愛知大学一般教育研究室『一般教育論集』第41号, p.13-23.

論文：ヴェーバー＝ケラーマン（他・著）『ヨーロッパ・エスノロジーの形成』を読む

2011年10月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第27号, p.99-134..

論文：〈不安〉が切りひらいた地平と障壁 — 日本民俗学にとって現代とは（2）

2012年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第28号, p.1-27.

論文：ファウスト伝承への民俗学からのスケッチ — 民衆信心と世俗化のあいだ（1）

2012年2月 愛知大学文学会『文学論叢』第145輯, p.29-62.（図版6点）

論文：昔話研究における〈自家類型〉（oicotype）の概念をめぐって — シイドォウ理論の再検討 —（1）

2012年3月 愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第42集, p.49-61.

訳書：ドイツ人はどこまでドイツの — 国民性をめぐるステレオタイプ・イメージの虚実と因由 Original:

Hermann Bausinger, *Typisch deutsch – wie deutsch sind die Deutschen?* München: Beck 2000.

2012年3月 文緝堂 262p.

翻訳：ヘルゲ・ゲルント「現代ドイツの自然神話 — 伝統的な自然理解と今日の環境意識の間で」（2001）

Original: Helge Gerndt, *Naturmythen – Traditionales Naturverständnis und modernes Umweltbewußtsein*. In: Rolf Wilhelm Brednich, Annette Schneider und Ute Werner (Hg.), *Natur – Kultur : Volkskundliche Perspektiven auf Mensch und Umwelt*. 32. Kongress der Deutschen Gesellschaft für Volkskunde in Halle vom 27. IX. Bis 1.X.1999., Münster [Waxmann] 2001.

2012年1月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第26号, p.93-126.

翻訳：クラウス・ロート「現代ヨーロッパの国際コミュニケーションにおける〈隣人〉と〈隣国〉：『近隣 — ドイツ人・ポーランド人・チェコ人のあいだのインターカルチュラル・コミュニケーション』

（2001）への序説」（1）Original: Klaus Roth, *Nachbarn und Nachbarschaftsbeziehungen in Europa als Forschungsproblem der Europäischen Ethnologie und der Interkulturellen Kommunikation*. In: Klaus Roth (Hg.), *Nachbarschaft. Interkulturelle Beziehungen zwischen Deutschen, Polen und Tschechen*. Münster / New York / München [Waxmann] 2001 (Münchener Beiträge zur Interkulturellen Kommunikation, Bd.11.), S.9-34.

2012年3月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第139号, p.301-322.

口頭発表：シュヴァーベン地方にみるドイツの民俗行事とその歴史的性格

2011年6月25日 中部ドイツ史研究会 第111回例会 於：愛知学院大学短期大学部（名古屋市本山）

口頭発表：「七人の眠り人」をめぐる文学と民俗学

2011年11月27日（日曜） 比較民俗学会年会 於：名古屋学院大学
シンポジウム企画：テーマ：まつり／イベント／地域開発と民俗学の課題
司会：野本欽也（岡崎むかし館主任専門員／三河民俗談話会）／（企画）河野眞（愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授）はじめに：シンポジウムの方向をさぐる：まつり／イベントにおける伝統と現代／パネラー：山崎一司（元・富山村教育長・民俗芸能学会評議員）／平賀菜由美（豊川市観光協会事務局長）／日比野光敏（名古屋経済大学・短期大学部・教授）／谷部真吾（名古屋大学大学院・文学研究科・助教）
2011年6月12日（日） 第41回 東海民俗研究発表大会 於：愛知大学 豊橋校舎

2010（平成22年度）

訳書：インゲボルグ・ヴェーバー＝ケラーマン / アンドレーアス・C. ビマー / ジークフリート・ベッカー（著）河野眞（訳）
ヨーロッパ・エスノロジーの形成 文叢堂 2010（3月），xvi, 口絵32葉, 377p.
（Ingeborg Weber-Kellermann / Andreas C.Bimmer / Siegfried Becker, *Einführung in die Volkskunde / Europäische Ethnologie. Eine Wissenschaftsgeschichte*. 3.vollständig überarbeitete und aktualisierte Aufl. Stuttgart-Weimar J.B.Metzler 2003.）
論文：〈不安〉が切りひらいた地平と障壁 — 日本民俗学にとって現代とは（1）
2010年9月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第25号, p.1-31.
論文：パウジンガー『フォルクスクンデ』（1971）の構想 — ドイツ民俗学の刷新への一齣を読む —
2010年8月 愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第39集, p.1-26.
論文：扇と扇面の東西比較へのスケッチ
2011年3月 高橋貴（編著）『扇の文化』あるむ p. 74-94. 口絵3p.（河野の分担に照応）
コラム：マトリョーシカの現在
2011年3月 愛知大学 民具陳列室（国際コミュニケーション学部）『民具陳列室ニュース』第8号, p.207. 口絵（表紙）
翻訳：カスパー・マーゼ「ポピュラー・エンタテインメントをめぐる変遷 — 〈大衆文化〉から〈ライブ社会へ〉」（Original: Kaspar Maase, *Spiel ohne Grenzen. Von der „Massenkultur“ zur „Erlebnisgesellschaft“*. *Wandel im Umgang mit populärer Unterhaltung*. In: Zeitschrift für Volkskunde, 90. Jg. (1994), S.13-36.）
2010年7月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第23号, p.101-135.
口頭発表：ふるさとの演出と演出されたふるさと
2010年6月13日第40回東海民俗研究発表大会（於：名古屋市博物館）
講演：人間の学としてのドイツ民俗学
2010年11月20日（日曜）比較民俗学会年会（於：名古屋学院大学）
講演：サモワールと湯沸し器具 — 西洋の喫茶慣習における湯沸し具の位置について
2010年8月25日（土曜）豊茗会（茶の文化振興会）定期講演会、於：名古屋市栄新栄ビル
講演：デザインからみた日中韓の比較
2010年11月6日（土曜）市民大学トラム総合講座「モノとデザイン」第一回 於：愛知大学5号館526

教室

2009 (平成21年度)

訳書：ヘルマン・パウジンガー『フォルクスクンデ・ドイツ民俗学 - 上古学の克服から文化分析の方法へ』Original: Hermann Bausinger, *Volkskunde – von der Altertumsforschung zur Kulturanalyse*. 1999 (3. Aufl.) 文緝堂 2010 (3月), viii,439p. 口絵32p.

論文：民俗学の形をドイツ語圏の学史に探る (2:完)

2010年3月 愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第38集, p.9-32.

論文：生物供犠と遊戯のあいだ - 雄鶏叩き行事に見る ドイツ民俗学史の一断面

2010年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第24号, p.39-84.

論文：ナトゥラリズムとシニシズムの彼方 - フォークロリズムの理解のために (5)

2009年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第23号, p.1-33.

論文：民俗学の形をドイツ語圏の学史に探る (1)

2009年7月愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第37集, p. 45-76.

翻訳：ヴォルフガング・カシュバ「ヨーロッパとグローバリゼーション：ヨーロッパ・エスノロジーへの新たな挑戦」- カシュバ (ベルリン大学ヨーロッパ・エスノロジー学科教授) の韓国ソウルでの講演 (2008年12月12日) の翻訳と解説 Original: Wolfgang Kaschuba, *Europa und die Globalisierung: Neue Herausforderung für die Europäische Ethnologie. Ein Vortrag in Seoul, 12. XII.2008*. 2010年3月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第135号, p.271-295.

翻訳：ヘルマン・パウジンガー「ドイツ人はどこまでドイツ的? - 国民性をめぐるステレオタイプ・イメージの虚実と因由 (2)」(Original: Hermann Bausinger, *TYPISCH DEUTSCH. Wie deutsch sind die Deutschen?* München 2000, 5.Aufl. 20003.)

2009年7月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第21号, p.49-84.

口頭発表：ヨーロッパの巡礼地説話 - 巡礼形態の再考

2009年11月22日 (日曜) 比較民俗学会年会 於：名古屋学院大学

講演：サモワールと湯沸し器具 - 西洋の喫茶慣習における湯沸し具の位置について

2009年6月20日 (土曜) 豊茗会 (茶の文化振興会) 定期講演会、於：名古屋市栄新栄ビル

講演：民衆の学の光と影 - ドイツ民俗学の視角から

2009年7月4日 (土曜) 三河民俗談話会・企画/愛知大学国際コミュニケーション学会・後援：ミニ・シンポジウム「民俗学における民間とアカデミズム」におけるパネラー発表 (他にパネラー発表：岩本通弥「民俗学のアカデミズム化をめぐる諸問題」、コメンテーター：森明子、重信幸彦、片茂永) 於：愛知大学5号館

コラム：世界の民具6：針入れ、あれこれ

2010年3月 愛知大学民具陳列室「民具陳列室ニュース」第7号 2010年3月, p.6-7.

コラム：博物館学内実習から：箸置きとぐい呑みで陶芸と触れあう

2010年3月 愛知大学民具陳列室「民具陳列室ニュース」第7号 2010年3月, p.8.

2008 (平成20年度)

訳書：ヘルベルト & エルケ・シュヴェート『南西ドイツ シュヴァーベンの民俗 - 年中行事と人生儀礼』

(Original: Herbert & Elke Schwedt, *Schwäbische Bräuche*. Stuttgart 1987.)

2009年3月 文楫堂 A4変形 234頁 図版72 地図3

論文：ナトゥラリズムとシニシズムの彼方 - フォークロリズムの理解のために (4)

2009年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第22号, p.1-19.

論文：シンデレラの構造と源流 (4)

2008年8月愛知大学文学会『文学論叢』第138輯, p208-178.

論文：ヨーロッパの年中行事に寄せて - 日本と比較しつつ一年の始まりを考える

2009年3月愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第36集, p.1-12.

論文：ナトゥラリズムとシニシズムの彼方 - フォークロリズムの理解のために (3)

2008年9月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第21号, p.45-71.

論文：ヨーロッパ・キリスト教の宗教民俗学と巡礼研究へのスケッチ

2008年3月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第28巻第3号(通巻133号), p.2-11.

論文：シンデレラの構造と源流 (3)

2008年2月愛知大学文学会『文学論叢』第137輯, p.152-116.

論文：ナトゥラリズムとシニシズムの彼方 - フォークロリズムの理解のために (2)

2008年3月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第20号, p.21-39.

論文：ヨーロッパの巡礼をめぐる議論への疑問と再論

2008年3月 愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第39集, p.1-16.

論文：ドイツにおける近代的大学の成立 - ベルリン大学をめぐって

2008年10月愛知大学東亜書院大学記念センター オープンリサーチ・センター「愛知大学史研究」第2号(2008年版), p.47-52.

翻訳：カール＝ジギスムント・クラマー「法民俗学の輪郭 (4)」(Original: Karl-Sigismund Kramer, *Grundriß einer rechtlichen Volkskunde*. Göttingen: Otto Schwarz 1974.)

2009年3月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第133号, p.211-244.

翻訳：ヘルマン・バウジンガー「ドイツ人はどこまでドイツ的? - 国民性をめぐるステレオタイプ・イメージの虚実と因由 (1)」(Original: Hermann Bausinger, *TYPISCH DEUTSCH. Wie deutsch sind die Deutschen?* München 2000, 5.Aufl. 20003.)

2009年1月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第20号, p.159-183.

翻訳：ゴットフリート・コルフ(編)「ヨーロッパ諸国のハロウィン (4)」(収録論文: ガブリエーラ・ムーリ/ユーリ・ギュール(チューリッヒ/スイス)「ハロウィン - ハロウィンナー - ハロウィンナー? - 習俗変化とイヴェント・カルチャーの間にあるスイスのハロウィン」; ハインツ・シリング(フランフルト・アム・マイン/ドイツ)「ハロウィン彗星」; アーロイス・デーリング(ボン/ドイツ)「ライン地方のハロウィン - 研究プロジェクトへのノート」; ザビーネ・デーリング=マントイフェル(アウクスブルク/ドイツ)「現れ出たのは蠅の神」; ニコレッタ・ディアジオ(ストラスブル)「会食

と混乱と消費：食べる者たちと死者たち」Original: “Halloween in Europa”. In: Zeitschrift für Volkskunde, Jg.97 II (2001), S:177-290. ; Gabriela Muri und Ueli Gyr (Zürich), *Halloween – Holloweener – Hollowinner? Halloween zwischen Brauchverwandlung und Eventkultur in der Schweiz.*; Heinz Schilling (Frankfurt am Main), *Komet Halloween.* ; Alois Döring (Bonn), *Halloween im Rheinland – Notizen zu einem Forschungsprojekt.*; Sabine Doering-Manteuffel (Augsburg), *Zeichen vom Fliegengot.*; Nicoletta Diasio (Strasbourg), *Communion, confusion, consommation: de la gourmandise et de morts.*
2008年7月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第19号, p.133-192.

翻訳：カール＝ジギスムント・クラマー「法制民俗学の方法(3)」(Original: Karl-Sigismund Kramer, *Grundriß einer rechtlichen Volkskunde.* Göttingen: Otto Schwarz 1974.)

2008年3月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第131号, p.199-243.

翻訳：ゴットフリート・コルフ(編)「ヨーロッパ諸国のハロウィン(3)」(収録論文：アグネータ・リーリヤ(ウブサラ)「スウェーデンのハロウィン — 文化的脅威、それとも歓迎される秋祭り?」; ヨーン・ヘルスロート(アムステルダム)「オランダのハロウィン」; ベルンハルト・チョーフエン(ウィーン)「オーストリアのハロウィン — ドッキングへの行事、グローバルな知識がローカルな形態をつくるのであろうか」; Original: “Halloween in Europa”. In: Zeitschrift für Volkskunde, Jg.97 II (2001), S:177-290. Agneta Lilja (Uppsala), *Halloween in Schweden – Kulturelle Bedrohung oder willkommenen Herbstfeier?*; John Helsloot (Amsterdam), *Halloween in Holland.* ; Bernhard Tschofen (Wien), *Halloween in Österreich – Ein Brauch zum Andocken oder: globales Wissenshaff lokale Formen.*)

2008年1月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第18号, p.141-169.

コラム：「第三帝国の中枢にて」に寄せて

2008年4月 ゲルハルト・エンゲル(記録) ヒルデガルト・フォン・コンツェ(編・原注) 八木正三(訳)『第三帝国の中枢にて』basilico [バジリコ], p.342-360.

講演：ふるさととグローバリゼーション

2008年11月22日 愛知大学・大学院リレー講演会 於・愛知大学車道校舎(講演記録：『愛知大学大学院リレー講演会<グローバリゼーションの進展と東海・名古屋>』(エッセー)ドイツ文化は宝の山だが…)

2008年9月30日 愛知大学・教職員組合「ひろば」第95号 p. 36-39.

2007 (平成19年度)

論文：ナトゥラリズムとシニシズムの彼方 — フォークロリズムの理解のために(1)

2007年12月愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第19号, p.37-53.

論文：シンデレラの構造と源流(2)

2007年9月愛知大学文学会『文学論叢』第136輯, p.230-212.

論文：民衆工芸(民藝)論の比較研究(2)

2007年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第18号, p.85-100.

論文：民衆工芸(民藝)論の比較研究(1)

2007年2月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第17号, p. 201-214.

論文：シンデレラの構造と源流（1）

2007年2月 愛知大学文学会『文学論叢』第135輯, p.254-232.

翻訳：カール＝ジギスムント・クラマー「法制民俗学の方法（2）」(Original: Karl-Sigismund Kramer, *Grundriß einer rechtlichen Volkskunde*. Göttingen: Otto Schwarz 1974.)

2007年9月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第130号, p.117-148.

翻訳：ゴットフリート・コルフ「ユーロ・ディズニーを考える－文化間の接触と対比をめぐる諸問題の検討」(Original:Gottfried Korff, *Euro Disney und Disnezy-Diskukrs. Bemerkungen zum Problem transkultureller Kontakt- und Kontrasterfahrungen*. Aus: Schweizerisches Archiv für Volkskunde, 90 (1994), S.207-232.

2007年9月 愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第38集, p.61-87.

翻訳：ゴットフリート・コルフ（編）「ヨーロッパ諸国のハロウィン（2）」(収録論文：ファビオ・ムニャイーニ（シエナ）「ハロイタリー－死者信奉から死のカーニヴァル化へ」/ホセフィーナ・ローマ（バルセロナ）「ハロウィンの再発見」/アーネ・オールヴィク（オスロ）「ノルウェーのハロウィン」；Original: “Halloween in Europa”. In: Zeitschrift für Volkskunde, Jg.97 II (2001), S:177-290. / Fabio Mugnaini (Siena), *Hallowitaly – Vom Kult der Toten zur Karnevalisierung des Todes*. / Josefina Roma (Barcelona), *Halloween – wiedergefunden*. / Ahne Ohrvik (Oslo), *Halloween in Norway*.)

2007年7月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第17号, p.161-194.

翻訳：ゴットフリート・コルフ（編）「ヨーロッパ諸国のハロウィン（1）」(収録論文：ゴットフリート・コルフ（テュービンゲン/ドイツ）「ヨーロッパのハロウィン－アンケートのためのキイ・ワード」；パトリシア・ライサート（ダブリン）「アイルランドのハロウィン－連続性と変容」；マルティエヌ・セガレーヌ（パリ）「フランス流ハロウィン」；Original: “Halloween in Europa”. In: Zeitschrift für Volkskunde, Jg.97 II (2001), S:177-290. / Gottfried Korff, *Halloween in Europa. Stichworte zu einer Umfrage*. / Patricia Lysaght, *Hallowe'en in Ireland: Continuity and Change*. / Martine Segalen, *Halloween a la Francaise*.)

2007年1月 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第16号, p.163-197.

翻訳：カール＝ジギスムント・クラマー「法制民俗学の方法（1）」(Original: Karl-Sigismund Kramer, *Grundriß einer rechtlichen Volkskunde*. Göttingen: Otto Schwarz 1974.)

2007年3月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第129号, p.231-270.

講演：フォークロリズムと現代社会

2007年3月23日 中国民俗学会・2007年第1届學術研討会（於：北京大学・社会学人類学研究所）

講演：現代フォークロア研究とは

2007年3月26日午後6時～9時 中国人民大学・哲学学院（特別講義）

談話：ハロウィンって何

2007年10月21日（日）『中日新聞』朝刊8面「子供タイムズ」

座談会：法制民俗学をめぐって

2007年3月25日（主催）中国民俗学会（於：東嶽廟）

トーク：神秘の国・ラオスを訪ねて

2007年3月31日（主催）世界の茶を楽しむ会（事務局担当：遠山清美 441-8106豊橋市弥生町字東

豊和157-1 Tel.0532-45-5511) 於：豊橋市生活家庭館 集会室 河野 眞：ルアンパバン断想 - 不発と充実のラオス紀行 (レジュメ 2p.)

司会 (講演・シンポジウム)：新谷尚紀「日本民俗学はどうあるべきか - 柳田國男の継承と発展」、コメンテーター：伊藤正英・繁原央・片茂永

2007年12月22日 (土) 愛知大学国際コミュニケーション学会主催

2006 (平成18年度)

論文：民俗学にとって観光とは何か - フォークロリズム概念の射程を探る -

2006年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第16号, p.77-91.

論文：茶弁当とサモワール

2006年2月 愛知大学民具陳列室「研究報告」第1輯, p.79-113 図版25点

コラム：聖体大祝日 - ドイツ・オーストリアの祭りから

2006年10月10日 愛知大学豊橋語学教育研究室「LL ニュース」No.33, p.6-7. 写真3点 (内1点は表紙)

コラム (清水伸子 愛知大学経済学部助教授と共著)：喫茶とサモワール

2006年3月 愛知大学民具陳列室「民具陳列室ニュース」第4号 2005年3月, p.2-5.

コラム：華角 - 世界の民具5：韓国

2006年3月 愛知大学民具陳列室「民具陳列室ニュース」第4号 2005年3月, p.6-7.

講演：シンデレラの秘密

2006年11月15日 豊橋市市民トラム講演会

口頭発表：現代社会と民俗学 - インフィオラータ行事に読み取るもの

2006年6月4日 第36回東海民俗研究発表大会 (於：岐阜)

翻訳：ヘルマン・バウジンガー「アイデンティティとは何か」(Original: Hermann Bausinger, *Identität*,

From: Hermann Bausinger / Utz Jeggle / Martin Scharfe / Gottfried Korf, Grundzüge der Volkskunde. Darmstadt [Wiss.Buchges.] 1978, S.204-263.)

2006年9月 愛知大学一般教育研究室「一般教育論集」第36集, p.161-198.

2005 (平成17年度)

著書『ドイツ民俗学とナチズム』

創土社 2005年8月刊 A5版 775頁 図版7頁 = 17点

訳書：ヘルマン・バウジンガー (著) 河野眞 (訳)『科学技術世界のなかの民俗文化』

文楫堂 3月2005年、B6版、iv, 412頁

(原著：Hermann Bausinger, *Volkskultur in der technischen Welt*.1961, 第2版1986 翻訳には第2版の序文を収録)

論文：<民俗文化>の語法を問う

2005年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第14号、p.47-70.

論文：民俗文化の現在 - フォークロリズムから現代社会を考える

平成17 (2005) 年2月 愛知大学文学会『文学論叢』第131輯, p.144-129.

講演：民具から見た日・中・韓の遠近

- 2005年10月8日 豊橋市市民トラム講演会
(座談会記録)：「費孝通理解の諸問題」司会：周星 座談者：加々美光行／河野眞／張琢
2005年12月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第15号, p.17-28: 費孝通先生追悼特集
－ 座談会記録.
(書評)：佐々木衛 (著)『費孝通 － 民族自省の社会学』東信堂2003年10月20日発行 (シリーズ 世界の社会学・日本の社会学)
2005年12月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第15号, p.95-96.

2004 (平成16年度)

- 訳書：ルードルフ・クリス／レンツ・レッテンベック『ヨーロッパの巡礼地』
文楫堂 2004年3月 A4版, 343頁, 図版220点,
(原著：Rudolf Kriss / Lenz Rettenbeck, *Wallfahrtsorte Europas*. 1951.)
論文：民俗学とくユビキタス>の概念
2004年12月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第13号, p.113-126. 図版2点
論文：現代フォークロアの理論 － ヘルマン・パウジンガーの<科学技術世界のなかの民俗文化>に寄せて
2004年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第12号, p.59-70.

2003 (平成15年度)

- 論文：茶弁当と各国におけるその類品
2003年12月 名古屋大学大学院文学研究科・比較人文学研究年報別冊「茶の文化フォーラム報告書」
p.13-19, 写真19点を付す。
論文：フォークロリズムの生成風景 － 概念の原産地への探訪から －
2003年11月 日本民俗学会「日本民俗学」第236号, p.3-19.
論文：ドイツ思想史におけるフォルクストゥームの概念について (2)
2003年9月 愛知大学国際問題研究所『紀要』第121号, p.1-18.
論文：ドイツ思想史におけるフォルクストゥームの概念について (1)
2003年3月 愛知大学国際問題研究所『紀要』第120号, p.91-112.
論文：民俗学における個と社会 － 二十世紀初めのフォルク論争を読み直す (4)
2003年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第10号, p.131-146.
論文：ナチス・ドイツに同調した民俗研究者の再検討 － オイゲン・フェーレの場合 (2)
2003年7月 愛知大学文学会『文学論叢』第128輯, p.186-167.
コラム：現代中国の民俗衣装から － 趙宇共先生の寄贈品について
2003年2月愛知大学民具陳列室「民具陳列室ニュース」第2号, p.1. 写真3点
エッセー：遙かなるジャワ
2003年2月25日 愛知大学豊橋語学教育研究室「LL ニュース」No.26, p.11.
口頭発表：フォークロリズムと民俗の行方
2003年11月22-23日 於・北京 中国語によるレジユメ「Folklorism 和民俗的去向」(訳：周星)：中国

民俗学会秘書処編「中国民俗学会成立20周年学術論議会論文集」, p. 80-81.

[中国語訳] 周星 (訳) 現代社会と民俗学 (Original: 河野2002「現代社会と民俗学」)

2003年6月 山東大学主弁「民俗研究 Folklore Studies」季刊2003年第2期, p.21-32.

[中国語訳] 現代社会と民俗学 (Original: 河野2002「現代社会と民俗学」)

「民俗研究 Folklore Studies」季刊2003年第2期 山東大学主弁

2002 (平成14年度)

論文: ナチス・ドイツに同調した民俗研究者の再検討 - オイゲン・フェーレの場合 (1)

2002年7月 愛知大学文学会『文学論叢』第126輯, p.154-136.

論文: 民俗学における個と社会 - 二十世紀初めのフォルク論争を読み直す (3)

2002年10月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第9号, p.199-226.

論文: 民俗学と非ナチ化裁判 - ハイデルベルク大学教授オイゲン・フェーレへの裁判の判決文にちなんで

2002年9月 愛知大学国際問題研究所『紀要』第119号, p.145-162.

論文: 現代社会と民俗学

2002年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第8号, p.43-53.

講演記録: 民俗学と異文化理解

2002年7月20日 東三河懇話会会報誌「MIKAWA NAVI」, p.16-18.

エッセー: 西安の秋

2002年6月 愛知大学国際コミュニケーション学部比較文化学科「西安市民の生活と問題 - 2001年度中国フィールドワーク報告集」p.160-168.

エッセー: 泡菜罐の顛末

2002年3月 三河民俗談話会『三河民俗』第6号, p65-69.

コラム: 「民衆文化の国際比較」の企画を始めるにあたって

2002年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第8号, p.31-32.

コラム: サモワールのある風景 - 世界の民具1

2002年3月 愛知大学民具陳列室「民具陳列室ニュース」第1号, p.8.

コラム: (開室構想から) モノに聞く - 民具陳列室の小さな時空

2002年3月 愛知大学民具陳列室「民具陳列室ニュース」第1号, p.2.

2001 (平成13年度)

論文: 民俗学における個と社会 - 二十世紀初めのフォルク論争を読み直す (2)

2001年9月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第7号, p.111-128.

論文: ナチス・ドイツの収穫感謝祭 - ナチスのプロパガンダに民俗イヴェントの源流をさぐる -

2001年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第6号, p.55-90.

論文: 民俗学における個と社会 - 二十世紀初めのフォルク論争を読み直す (1)

2001年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第6号, p.201-213.

論文: 提灯考 - 民具の普及・伝播のモチーフにかんする試論

『比較民俗学のために - 小島瓊禮教授退官記念論集』小島瓊禮教授退官記念論集刊行委員会2001年3月 p.398-412.

論文：サモワール式湯沸し具の日本での系譜について
2001年2月 愛知大学文学会『文学論叢』第123輯, p.168-134.

エッセー：中国陝西省に郷鎮企業の村を訪ねて
2001年10月 愛知大学国際コミュニケーション学部比較文化学科「戸県農民の生活と文化 - 2000年度中国フィールドワーク報告集」p.124-138.

2000 (平成12年度)

論文：ドイツ民俗学におけるローマ・カトリック教会とナチズム - 特にゲオルク・シュライバーを中心とした宗教民俗学の位置付けをめぐって (その2)

2000年10月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第5号, p.1-27.

論文：ドイツ民俗学におけるローマ・カトリック教会とナチズム - 特にゲオルク・シュライバーを中心とした宗教民俗学の位置付けをめぐって (その1)

2000年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第4号, p.7-25.

1999 (平成11年度)

論文：バウジンガーを読む - 「科学技術世界のなかの民俗文化」への案内

1999年3月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』第2号, p.101-118.

エッセー：＜永遠なる＞グリムのメルヒェン

1999年4月 青土社『ユリイカ』1999年4月号

講演：異文化と民俗文化 - 民俗行事の国際化をめぐって

1999年10月23日 「愛短オープンカレッジ連携講座：異文化への招待 第4回」

1998 (平成10年度)

エッセー：南島断想

1998年1月 愛知大学国際コミュニケーション学会『文明21』創刊準備号, p.69-71.

1997 (平成9年度)

論文：ナチズムと学術政策 - 特に「親衛隊 - 祖先の遺産」の成立事情について -

1997年3月 愛知大学経済学会「経済論集」第143号, p.147-236.

書評：民俗学と政治性または近代 - 「民俗学の政治性」によせて

1997年5月『未来』No.368, p.20-23. [岩竹美加子 (編訳) 『民俗学の政治性』への書評]

1996 (平成8年度)

エッセー：森の国ドイツの光と影

1996年9月26日 アイカ工業株式会社広報室「AiCA EYES」Vol.23, 10-13.

論文：現代民俗学への視点をめぐって - ドイツ語圏の民俗研究との比較において -

平成 8 (1996) 年 7 月 愛知大学文学会『文学論叢』第108輯, p.80-63.

or 平成 6 (1994) 年 7 月 愛知大学文学会『文学論叢』第106, p.80-63.

1995 (平成 7 年度)

論文：寸報 日本民俗学の歴史と現状 - 問題提起に代えて -

平成 7 (1995) 年 7 月 愛知大学文学会「文学論叢」第109輯, p.162-144.

翻訳：ヘルマン・バウジンガー「昔話の解釈とは何か - 灰かぶり姫 (シンデレラ) とそのシンボル性にちなんで」

1995年 8 月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第15巻第2号 (通巻85号), p.1-14. (Original: Hermann Bausinger, *Aschenputtel. Zum Problem der Märchensymbolik*. In: *Zs.f.Vkde.* 52.Jg. [1961], S.144-155.)

コラム：ナチズムとドイツ民俗学 - バウジンガーの理論によせて

平成 7 (1995) 10月15日『産経新聞』文化欄

1994 (平成 6 年度)

(科研報告書)：ドイツ民俗学とナチズム - 第二次大戦後のドイツ民俗学の展開と

ナチズム問題 - (平成 4 年度文部省科学研究費補助金 [一般研究 C 課題番号03610250研究代表者：河野真] による研究「ナチズムとドイツ民俗学」の成果報告書)

平成 6 年 3 月, 186頁

論文：外からみた日本の民俗学

平成 6 (1994) 年11月 愛知大学文学会「文学論叢」第107輯, p.55-78.

論文：ドイツ語圏における現代民俗学への一視点 - ドイツ語圏の民俗研究との比較において -

1994年 9 月 筑波大学比較民俗研究会『比較民俗研究 for Asian Folklore Studies』第10号, p.152-159.

1993 (平成 5 年度)

論文：西ヨーロッパの巡礼慣習にたいする基本的視点について - 特に日本でおこなわれている通念の修正のために (2)

平成 5 (1993) 年10月 愛知大学文学会『文学論叢』第104輯, p.184-159.

論文：西ヨーロッパの巡礼慣習にたいする基本的視点について - 特に日本でおこなわれている通念の修正のために (1)

平成 5 (1993) 年 3 月 愛知大学文学会『文学論叢』第102輯, p.128-109.

翻訳：ヘルマン・バウジンガー「folk・イデオロギーとfolk研究 - ナチズム民俗学へのスケッチ」
(Original: Hermann Bausinger, *Volksideologie und Volksforschung. Zur nationalsozialistischen Volkskunde*. In: *ZfVkd.* 61 [1965])

1993年11月 愛知大学経済学会「経済論集」第133号, p.147-187.

翻訳：H・バウジンガー／M・ブラウン／H・シュヴェート「新しい移住団地 - 東ヨーロッパからのドイツ人引揚者等の西ドイツ社会への定着にかんするルートヴィヒ・ウーラント研究所による民俗学・社会学調査 (抄訳・解説)」(4)

1993年9月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第99号, p.151-186.

翻訳：H・パウジンガー／M・ブラウン／H・シュヴェート「新しい移住団地 - 東ヨーロッパからのドイツ人引揚者等の西ドイツ社会への定着にかんするルートヴィヒ・ウーラント研究所による民俗学・社会学調査 (抄訳・解説)」(3)

1993年2月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第98号, p.241-263.

1992 (平成4年度)

論文 (講演記録)：フォークロリズムから見た今日の民俗文化 - ドイツ民俗学の視角から

1992年5月 三河民俗談話会『三河民俗』第3号, p.94-112.

訳書：河野 眞 (訳・解説) レーオボルト・シュミット『オーストリア民俗学の歴史』

(Original: Leopold Schmidt, *Geschichte der österreichischen Volkskunde. Wien 1951.*)

1992年3月 名著出版, ii, 435頁, 口絵2葉, 図版多数

口頭発表要旨：スロヴェニア (ユーゴ北部) におけるフランシスコ・ザヴィエル巡礼地とその現状

1992年3月 日本宗教学会 (編)『宗教研究』291号 (第50回学術大会紀要特集), p.194-195.

翻訳：グスタフ・グーギッツ「高地オーストリアの巡礼地」(7)

平成4 (1992) 年5月 愛知大学文学会『文学論叢』第99輯, p.116-101.

1991 (平成3年度)

論文：ドイツ語圏における現代民俗研究とマス・メディア資料の活用 - 現代日本民俗の資料をめぐる議論のために -

1991年3月 筑波大学比較民俗研究会『比較民俗研究 for Asian Folklore Studies』第3, p.124-145.

コラム：民衆研究に新しい枠組み ドイツ民俗学大会に参加して

1991年12月6日 「朝日新聞」夕刊4面 [文化] 欄

翻訳：H・パウジンガー／M・ブラウン／H・シュヴェート「新しい移住団地 - 東ヨーロッパからのドイツ人引揚者等の西ドイツ社会への定着にかんするルートヴィヒ・ウーラント研究所による民俗学・社会学調査 (抄訳・解説)」(2)

1991年12月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第96号, p.95-138.

翻訳：グスタフ・グーギッツ「高地オーストリアの巡礼地」(6)

平成3 (1991) 年10月 愛知大学文学会『文学論叢』第98輯, p.104-84.

翻訳：H・パウジンガー／M・ブラウン／H・シュヴェート「新しい移住団地 - 東ヨーロッパからのドイツ人引揚者等の西ドイツ社会への定着にかんするルートヴィヒ・ウーラント研究所による民俗学・社会学調査 (抄訳・解説)」(1)

(Original: *Neue Siedlungen. Volkskundlich-soziologische Untersuchungen des LudwigUhland-Instituts. Stuttgart 1959, 2.Aufl.1963*)

1991年5月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第94号, p.53-102.

翻訳：グスタフ・グーギッツ「高地オーストリアの巡礼地」(5)

平成3 (1990) 年3月 愛知大学文学会『文学論叢』第96輯, p.186-144.

1990 (平成2年度)

論文：ドイツ民俗学の紹介の現状にみる傾向と問題点

1990年8月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第11巻第8号(通巻65号), p.1-8.

論文：古典劇における歌謡の使用とその背景 - ゲーテ・シェイクスピア・モリエール

平成2年7月 愛知大学文学会『文学論叢』第94輯, p.43-96.

論文：巡礼地ザンクト・ヴォルフガング発達小史 - 発端から中世末期まで

平成2年3月 愛知大学文学会『文学論叢』第93輯, p.206-172. (地図2葉を含む)

翻訳：インゲボルク・ヴェーバー＝ケラーマン「ドイツ民俗学 - ゲルマニスティクと社会科学の間で -」(4)

1990年12月 愛知大学法経学会「経済論集」第124号, p.163-207.

翻訳：ハンス・モーザー「民俗学の研究課題としてのフォークロリスムス 訳者解説,

付録：ヘルマン・パウジンガー：ヨーロッパ諸国のフォークロリスムス - 西ドイツ民俗学会から各国へ送付されたアンケート」(下)

(Original: Hans Moser, *Der Folklorismus als Forschungsproblem der Volkskunde*. In: Hessische Blätter für Volkskunde, Gießen 55 [1964], S.9-57.; Hermann Bausinger, *Folklorismus in Europa. Eine Umfrage*. In: ZfVkd, 61 [1965])

1990年6月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第91号, p.248-180. パウジンガー論文 :p.201-191

翻訳：ヘルマン・パウジンガー「民俗文化の連続性をめぐる代数学」

1990年5月 愛知大学「一般教育論集」第3号, p.89-109. (Original: Hermann Bausinger, *Zur Algebra der Kontinuität?* In: *Kontinuität Geschichtlichkeit und Dauer als volkskundliches Problem*, hrsg.von Hermann Bausinger und Wolfgang Brückner. Berlin [Erich Schmidt] 1969, S.)

翻訳：インゲボルク・ヴェーバー＝ケラーマン「ドイツ民俗学 - ゲルマニスティクと社会科学の間で -」(3)

1990年2月 愛知大学法経学会「経済論集」第122号, p.149-193.

翻訳：ヘルベルト・シュヴェート「シュヴァーベンの民俗から - ヴァイナハト(クリスマス) その2」

1990年4月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第11巻第4号(通巻61号), p.1-5.

翻訳：ヘルベルト・シュヴェート「シュヴァーベンの民俗から - ヴァイナハト(クリスマス) その1」

1990年3月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第11巻第3号(通巻60号), p.1-7.

翻訳：G・ゲーギツ『オーストリアの祭りと年中行事から - ①昔のウィーンの新年の贈り物 ②豆の王様 - 三聖王日の慣習』

1990年2月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第11巻第2号(通巻59号), p.1-12.

翻訳：ヘルベルト・シュヴェート「シュヴァーベンの民俗から - アトヴェント その2」

1989年1月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第11巻第1号(通巻58号), p.5-11.

1989 (昭和64年／平成1年度)

コラム：18世紀 ユーゴ北部に大巡礼地 オーストリア民俗学会に参加して

1989年7月14日 『朝日新聞』夕刊4面 [文化] 欄

翻訳：ハンス・モーザー「民俗学の研究課題としてのフォークロリスムス」(上)

(Original: Hans Moser, *Der Folklorismus als Forschungsproblem der Volkskunde*. In: Hessische Blätter für Volkskunde, Gießen 55 [1964], S.9-57.)

1989年12月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第90号, p.264-232.

翻訳: グスタフ・ゲーギッツ「高地オーストリアの巡礼地」(4)

平成1(1989)年12月 愛知大学文学会『文学論叢』第92輯, p.244-227.

翻訳: ヘルベルト・シュヴェート「シュヴァーベンの民俗から - アトヴェント その1」

1989年10月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第10巻第10号(通巻55号), p.4-8.

翻訳: グスタフ・ゲーギッツ「高地オーストリアの巡礼地」(3)

平成1(1989)年7月 愛知大学文学会『文学論叢』第91輯, p.96-69.

翻訳: レーオポルト・シュミット「精神科学としての民俗学」

(Original: Leopold Schmidt, *Die Volkskunde als Geisteswissenschaft*. In: Mitteilungen des Österreichischen Gesellschaft für Anthropologie, Ethnologie und Prähistorie, Bd.73/77. Wien 1947, S.115-137.)

1989年7月 愛知大学国際問題研究所「紀要」第89号, p.244-201.

翻訳: レーオポルト・シュミット「信仰なき習俗 - 公的シンボル動作をめぐる意味解釈の変遷 -」

1989年5月 愛知大学「一般教育論集」第2号, p.51-79. (Original: Leopold Schmidt, *Brauch ohne Glaube. Die öffentlichen Bildgebärden im Wandel der Interpretationen*. In: L.Schmidt, *Volks Glaube und Volksbrauch. Gestalten, Gebilde, Gebärden*. Berlin [Erich Schmidt] 1966, S.289-312.)

翻訳: ヘルベルト・シュヴェート「シュヴァーベンの民俗から - ニコラウス その2」

1989年4月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第10巻第4号(通巻49号), p.8-12.

翻訳: グスタフ・ゲーギッツ「高地オーストリアの巡礼地」(2)

平成1(1989)年3月 愛知大学文学会『文学論叢』第90輯, p.84-50.

翻訳: ヘルベルト・シュヴェート「シュヴァーベンの民俗から - ニコラウス その1」

1989年3月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第10巻第3号(通巻48号), p.1-7.

翻訳: インゲボルク・ヴェーバー＝ケラーマン「ドイツ民俗学 - ゲルマニスティクと社会科学の間で -」(2)

昭和64(1989)年2月 愛知大学法経学会「法経論集 経済・経営篇I」第118・119合併号 p.79-129.

インゲボルク・ヴェーバー＝ケラーマン「ドイツ民俗学 - ゲルマニスティクと社会科学の間で(2)」昭和64(1989)年2月 愛知大学法経学会「法経論集 経済・経営篇I」第118・119合併号

p.79-129. Original: Ingeborg Weber-Kellerman, *Detusche Volkskunde zwischen Germanistik und Sozialwissenschaften*. Stuttgart 1969, 2.erw. und. erg. Aufl. : I.Weber-Kellermann u. Andreas C. Bimmerm, *Einführung in die Volkskunde / europäische Ethnologie*. Stuttgart 1985. [Sammlung Metzler 79]

翻訳: ヘルベルト・シュヴェート「シュヴァーベンの民俗から - マルティニーニ その2」

1989年2月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第10巻第2号(通巻47号), p.1-9.

翻訳: ヘルベルト・シュヴェート「シュヴァーベンの民俗から - マルティニーニ その1」

1989年1月 比較民俗学会「比較民俗学会報」第10巻第1号(通巻46号), p.1-10.

1988年(昭和63年度)

訳書: レーオポルト・クレツェンバッハー『民衆バロックと郷土 - 南東アルプス文化史紀行』

1988年10月 名古屋大学出版会, 本文347頁, 索引13頁, 写真24頁, 地図2葉 (原著: Leopold Kretzenbacher, *Heimat im Volksbarock. Kulturhistorische Wanderungen in den Südostalpenländern*. 1961.)

翻訳: グスタフ・グーギッツ「高地オーストリアの巡礼地」(1)

(Gustav Gutitz, *Die Wallfahrten Oberösterreichs. Versuch einer Bestandnahme mit besonderer Hinsicht auf Volksglauben und Brauchtum*. Wien 1954.)

昭和63 (1988) 年12月 愛知大学文学会『文学論叢』第89輯, p.202-152.

翻訳: レーオポルト・シュミット「巡礼研究と民俗学」

昭和63 (1988) 年6月 愛知大学文学会『文学論叢』第88輯, p.264-228.

(Original: Leopold Schmidt, *Wallfahrtsforschung und Volkskunde. Umschau und Ausblick*. In: L.Schmidt, *Volksglaube und Volksbrauch. Gestalten, Gebilde, Gebärden*. Berrlin [Erich Schmidt] 1966.)

翻訳: インゲボルク・ヴェーバー＝ケラーマン「ドイツ民俗学 - ゲルマニスティクと社会科学の間で -」(1)

昭和63 (1988) 年6月 愛知大学法経学会「法経論集 経済・経営篇1」第117号, p.93-133.

翻訳: ヘルマン・バウジンガー「現代民俗学の輪郭」

1988年5月 愛知大学「一般教育論集」第1号, p.79-94. (Original: Hermann Bausinger, *Konzepte der Gegenwartsvolkkunde. Vortrag im Institut für Volkskunde der Universität Wien am 24. März 1983*. In: *Österreichische Zeitschrift für Volkskunde*, NS. 38 (1984), S.89-106.)

翻訳: マティルデ・ハイン「ドイツ民俗学とその方法」(2)

昭和63 (1988) 年3月 愛知大学文学会『文学論叢』第87輯, p.190-169.

1987 (昭和62年度)

翻訳: マティルデ・ハイン「ドイツ民俗学とその方法」(1)

昭和62 (1987) 年12月 愛知大学文学会『文学論叢』第86輯, p.146-123. (Original: Mathilde Hain, *Volkkunde und ihre Methode*. In: *Deutsche Philologie im Aufriss*, hrsg. von Wolfgang Stammer, Bd.III, 2.Aufl. 1962, Sp.2547-2570.)

翻訳: レーオポルト・シュミット「ゲーテと巡礼慣習」

昭和62 (1987) 年7月 愛知大学文学会『文学論叢』第85輯, p.200-164.

(Original: Leopold Schmidt, *Goethe und das Wallfahrtswesen*. In: *Bayerisches Jahrbuch für Volkskunde*, (fürs Jahre 1976/77 Volkach vor Würzburg 1978, S.218-226.)

翻訳: ルドルフ・クリス/レンツ・レッテンベック「ドイツの巡礼地」(1)

昭和62 (1987) 年3月 愛知大学文学会『文学論叢』第84輯, p.206-167.

1986 (昭和61年度)

口頭発表記録: ドイツにおける民俗学の現状

昭和61 (1986) 年11月 大塚民俗学会『民俗学評論』第26号, pp.1-47: 「昭和60年度大塚民俗学会年会 シンポジウム: 欧米における民俗学の現状」(昭和60 [1985] 年12月1日開催), (ドイツにおける民俗学の現状: 17-33) .

翻訳: ルドルフ・クリス/レンツ・レッテンベック「ドイツの巡礼地」(1)

昭和61（1986）年11月 愛知大学文学会『文学論叢』第82/83（合併）輯, p.406-368.

1985（昭和60年度）

論文（科研報告書）：西ヨーロッパの民衆文化 - 教会民俗と巡礼地習俗を中心に（昭和57年度一般研究 B 課題番号57490019 研究代表者：河野 眞 愛知大学助教授）

収録論文／河野執筆分は次の5篇：「蹄鉄の伝説 - 文化史からみた1797年のゲーテの詩想」（71頁）, 「靈験記からみたオーバーブルクのフランツ・クサーヴァー巡礼地の成立事情」（20頁）, 「聖餅伝承とその巡礼地形成史に占める位置について」（54頁）, 「念持画片（Kleines Andachtsbild）の成立とその周辺」（32頁）, 「巡礼地研究の諸問題小考」（90頁）河野267頁

昭和60（1985）年9月

論文：念持画片（Kleines Andachtsbild）の成立とその周辺 - A. シュパーマーに依拠しつつ

昭和60（1985）年3月 愛知大学『外国語研究室報』第9号, p.39-70.

翻訳：レーオポルト・クレツェンバッハー「神の怒りの矢」

昭和60（1985）年12月 愛知大学文学会『文学論叢』第80輯, p.245-271.

1984（昭和59年度）

論文：聖餅伝承とその巡礼地形成史に占める位置について --R. バウアライズ理論の再評価のために（下）

昭和59（1984）年7月 愛知大学文学会『文学論叢』第76輯, p.264-235.

論文：聖餅伝承とその巡礼地形成史に占める位置について --R. バウアライズ理論の再評価のために（上）

昭和59（1984）年3月 愛知大学文学会『文学論叢』第75輯, p.226-198.

論文：靈験記からみたオーバーブルクのフランツ・クサーヴァー巡礼地の成立事情

昭和59（1984）年3月 愛知大学『外国語研究室報』第8号, p.67-86.

1983（昭和58年度）

論文：ヴォルフガング聖人伝 - その民俗と伝承

昭和58（1983）年7月 愛知大学文学会『文学論叢』第73輯, p.250-195.

論文：蹄鉄の伝説 - 文化史からみた1797年のゲーテの詩想 -

昭和58（1983）年 愛知大学文学会『文学論叢』第72輯, p.113-186.

論文：教会と民衆歌謡 - 中世ドイツの典礼との関係でみた教会歌謡とその背景

昭和58（1983）年3月 愛知大学『外国語研究室報』第7号, p.25-71.

1982（昭和57年度）

論文：ヴォルフガング聖人伝 - 事蹟篇 -

昭和57（1982）年7月 愛知大学文学会『文学論叢』第70輯, p.252-187.

論文：ゲーテのパラーデ『魔王』 - ジャナル史からみた詩想の解明 -

昭和57（1982）年3月 愛知大学文学会『文学論叢』第69輯, p.338-305.

論文：ジングシュピールの成立 - 18世紀ドイツ文芸潮流の一側面

昭和57（1982）年3月 愛知大学『外国語研究室報』第6号, p.43-60.

1981 (昭和56年度)

- 論文：嬰兒殺害とその周辺 - 近代以前のドイツ刑法と文学 -
昭和57 (1982) 年 7 月 愛知大学文学会『文学論叢』第67輯, p.205-237.
- 論文：呪詞・呪文小考 - ドイツ語のばあい
昭和55 (1981) 年 3 月 愛知大学『外国語研究室報』第 5 号, p.69-86.

1980 (昭和55年度)

- 論文：ゲーテ詩の遠近法 (2) - 民俗文化との関係においてみたゲーテ詩の成立事情
昭和55 (1980) 年11月 愛知大学文学会『文学論叢』第65輯, p.155-245.
- 論文：ゲーテ詩の遠近法 (1) - 民俗文化との関係においてみたゲーテ詩の成立事情
昭和55 (1980) 年 7 月 愛知大学文学会『文学論叢』第64輯, p.169-206.

1979 (昭和54年度)

- 論文：言葉あそび散見 - ドイツ語のばあい
昭和54 (1979) 年 3 月 愛知大学『外国語研究室報』第 3 号, p.58-72.
- 論文：ゲーテのバラード『不実な若者』をめぐる諸問題 (中) - ドイツ・バラード史への方法論のために
昭和54 (1979) 年 1 月 愛知大学文学会『文学論叢』第61輯, p.165-249.

1978 (昭和53年度)

- 論文：ゲーテのバラード『不実な若者』をめぐる諸問題 (上) - ドイツ・バラード史への方法論のために
昭和53 (1978) 年 6 月 愛知大学文学会『文学論叢』第60輯, p.193-264.
- 論文：フランシスコ・サヴィエル伝説 - ドイツ民衆バロックにかんする思考モデルの試み
昭和53 (1978) 年 3 月 愛知大学文学会『文学論叢』第59輯, p.155-216.

(研究会発表記録)：ゲーテ詩の遠近法

昭和53 (1978) 年 愛知大学現代研究会『現代研究会会報』第 1 号, p.3-4.

1974 (昭和49年度)

- 論文：ゲーテのバラード『コリントの花嫁』をめぐって (その1)
昭和49 (1974) 年 3 月 愛知大学文学会『文学論叢』第51輯, p.33-94.

